

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

2月2日
第1聖日
第3337号

「聖なる口づけ」

大串昇兄召天三周年記念礼拝

あなたがたは聖なる口づけをもって互いのあいさつをかわしなさい。キリストの教会はみな、あなたがたによりしくと言っています。ローマ16:16

聖
言

イエスこそ我の存在の理由

私はもしイエス様が十字架の上で死んでくださらなければ永遠に地獄の火でもだえているはずのものでした。ゆえに、いまでも次から次へと昔の罪が暴かれて恐れおののいています。そのたびにイエス様が十字架を仰いでいます。もし十字架の罪の赦しがなければ、毎日、犯した罪に責められ、良心の呵責の責め苦にあつていてしょう。良くもあのようなまねをしたものだと、罪に対してのプロのような手口の見事さにアダムからの遺伝的な罪の感化の巧妙さに舌を巻きます。イエス様がいてくださらなければ、私の国籍は地獄以外に見あたらない罪人です。ゆえに私にとつてもイエス様以外は存在の理由は見出せないような者です。私にとつてイエス様は親よりも空気よりも生命よりも大切な存在なのです。わたしそのものはイエスのゆえにあるのです。イエス様から離れた私はありません、仮にはなれたなら永遠の自殺行為なのです。一瞬たりともイエス様とは離れられないものとして存在しているのです。この弱き、罪人を見放さないでください。

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 神戸長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年一月一九日午前二〇時 礼拝 山本牧師

「主にあつて愛する同労者」 小段太一兄召天十周年記念礼拝
「主にあつて私の愛するアムフリアトによろしく。キリストにあつて私たちの同労者であるウルパノと、私の愛するスタキスとによろしく。」(ローマ一六ノ八、九)

クリスチャンは国籍も生まれも教育も家庭も異なります。共通点は主にあつて、キリストにあつて愛する人であり、同労者であり、大切な人である。小段兄は愛する同労者であり、キリストに従順に仕えた聖徒でありました。今小段姉が主人の後を継いで信仰を励んでいます。

二〇一四年一月二九日午後七時 祈祷会 山本牧師

「エレミヤ哀歌二章」

「ああ、主はシオンの娘を御怒りで曇らせ、イスラエルの栄を天から投げ落とし、御怒りの日に、**マ**自分の足台を重い出されなかつた。」

(哀歌二ノ一)

哀歌二章はヘブル語のアルファベット二二文字が各節の冒頭のことばに順番になつている。ただ一六節と一七節だけが順番が入れ違つています。このことに関するラビの説明は風変わりである。「イスラエルは目(Ayine)で見なかつたことを口(pe)で語つた。即ちイスラエルが偽りを行ったので言葉の順番も変わつてしまつた。本来神は愛するべきイスラエルを憎むということは考えられないことである。これはやがて十字架の上にかげられた主のお姿によつて現されている。

宣教⑦

第三課 歴史の主人公になられた神
―世界宣教の歴史―

三・三・二 捕虜による宣教

a) ローマに侵入したゴート人、ヴァンダル人などは荒々しかったが、キリスト教について多少は知っていた反面、バイキングは文明化されておらず、キリスト教についても全く知らなかった。彼らは残酷なやり方でヨーロッパやイギリス、アイルランドを略奪した。

b) 教会だけは略奪しなかつたゴート人、ヴァンダル人と違って、バイキングは学問とキリスト教の中心だつた修道院を容赦なく略奪した。彼らは教会を焼き討ちにし、修道士や女性、子どもを奴隷として売ることもためらわなかつた。福音を聞いたことのない彼らの行動は、より残酷で血なまぐさかつた。神の民が神の真理にあずかる祝福を諸国の民と分かち合わなかつたことで起きた悲劇だつた。

c) しかし一〇〇―一二世紀にかけて捕虜として連れていかれた修道士や女性たちによつて、スカンジナビア半島(デンマーク、ノルウェー、スウェーデン)に福音が広がつた。彼らは千年以上も人をいけにえとしてささげ、乳児遺棄や奴隷殺しなどを行つてきたが、福音の影響でこうした行いが顕著に減つた。

d) 王や族長を中心に集団的な改宗が行われ、一三八六年にリトアニアがヨーロッパで最後のキリスト教国家となることで、全ヨーロッパが福音化した。

三、四 十字軍によつて歪曲されたサラセン人宣教時代(一二〇〇―一六〇〇年) 第四期

三、四、一 宣教のメカニズム

自発的に行く宣教の歪曲されたパターンである

三、四、二 キリスト教史上最大の過ち 十字軍遠征

バイキングの宣教時代が終えるころ、イスラムの拡大に脅威を感じたヨーロッパの教会は、聖地回復を大義名分に、七回に

わたってイスラム地域に遠征した。名目は宗教戦争だったが、背後には政治的、産業的な野望と貪欲があった。十字軍は遠征先で略奪と放火、虐殺の限りを尽くし、中でも一〇九九年のエルサレム征服時には七万人虐殺した。十字軍遠征は、今に至るまで中東地域の人々の心を閉ざされる結果を残した。ラルフ・ウインタールは十字軍遠征を「それ以前のいかなる集団や国家も、キリストの名によって他の領土をこれほど強力に、絶えず侵攻したことはなかった。」と指摘し、「十字軍遠征から得る教訓は、神に対する犠牲的献身があるとしても、それが神の御心に対する明確な理解に基づいていないなら、大きな悲劇を招くと言うことだ」としている。これは非聖書的な方法を動員した宣教の失敗を示している。

(ワイ・ミッションより)

第十四回(癒し)五〇日連続祈禱

一月二六日(日)～三月二六日(日)

午後二時～午後二時半

祈りの後、楽しいティーで休憩

場所 教会二階(気軽に参加して共に祈りましょう)